

莖頭ニアツマリテ、著花ノ如ニシテ小ナリ、白色、黄藥花罷テ、苗枯ル、旁ニ根鬚ヒロガリテ、苗多ク生ルコト、旋覆花ノ如シ、

〔廣益地錦抄〕六 白苑 宿根より春生、葉は玄をんよりみじかく、よこへ少ひろし、初生地に敷莖出て五六尺迄にのび立、花は玄をんのごとくにて白し、玄をんと同時にひらくる草也、植てながめ有、又一種小玄をんと云草あり、花極て小りん白し、草立葉共に玄をんのごとくにて小草なり、二尺ばかりのび立、花壇にうへて玄ほらし、宿根より春生、

金盞草

〔多識編〕二 金盞草、今案比米加左加豆岐、俗稱金盞花、

〔大和本草〕七 金盞花 キンセン花ナリ、花金紅色、八月ニ子ヲマキテ臘月ヨリ花ヒラキ、春尤盛

ナリ、四時相ツグ、故又常春花ト云、本草及諸書ニ出タリ、春花最ヨシ

〔重修本草綱目啓蒙〕十二 金盞草 キンセンクハ トコナツバナ フダンバナ トキシラズ

ケイセイクハン 加州 アリヤク 攝州 コガ子グサ 一名常春花 汝南 長春菊 花疏 回回

菊三才 金盞兒 救荒 高苣花 遵生八牋、菜部、高苣ニモ金盞花ノ

家ニ栽テ瓶花ニ供ス、葉細長ニシテ尖ラズ、鼠麴草ノ葉ニ似テ、大ニシテ白色ヲ帶ブ、初メ地ニ就

テ叢生ス、取テ食料ニ供ス、春月莖ヲ抽ツ、高サ六七寸、枝頭ゴトニ花ヲ開キ、久シク相續グ、形單瓣

ノ菊花ニ似テ小ク正開セズ、常ニ蓋子様ヲナス、紅黄色亦淡黄色ノ者アリ、花後實ヲ結ブ、其形屈

曲シテ蟲ノ狀ニ似タリ、蘇頌變生一小蟲ト云ハ非ナルコト時珍辨ゼリ、本邦ニテ和名金錢花ト

云ハ誤リナリ、唐山ニテ錢ト云ハ滿開シタル者ヲ云、金盞草ノ花ハ半開キニシテ蓋ノ如シ、故ニ

金盞花ノ名アリ、牛時花旋覆花ハ正ク開ク、故ニ金錢花ノ名アリ、

〔剪花翁傳〕三月開花、金仙花 又金盞花、色赤黄也、常の如くに秋の彼岸に下種すれば、開花三月中

旬より四月中旬まであり、方日向、地一分濕、土えらばず、肥淡小便、下種布肥して蒔べし、花までに